

- 議長（河野） 7番、三好東曜君。
- 7番（三好東） はい。議長。 7番、三好東曜。
- 議長（河野） 三好君。
- 議長（河野） なお、三好君は一問一答であります。 1問目の質問を許します。
- 7番（三好東） はい、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

我が国は川崎議員の外国人土地取得問題の質問でもあったように、常に国家の乗っ取り、転覆、支配などの危機にあり、現在はグローバリストと呼ばれる金融資本を牛耳る人類比1%の人々の影響が強く世界各国の国家運営に影響を及ぼしており、さらに敗戦国として未だアメリカの政治的圧力下にあり、新植民地主義と呼ばれる制限下に我が国の政府は置かれています。

したがって、そのグローバリストが全ての主要メディアの有力株主であり、彼らの都合が悪い情報は流さないという風に情報統制、制限がかけられたプロパガンダが我々が主要テレビ、新聞を通じて知りうる情報となっています。SNSでもInstagramやFacebookの運営会社、META社のザッカーバーグCEOも政治的な圧力により情報統制を行なったと表明し、彼らの圧力が表に出たことが世界的なニュースになりました。農政や郵政民営化、水道事業の民営化、NTTの通信網の民営化など、明らかに国家利益に反する事業のほとんどはグローバリストの圧力によるものであり、国家解体戦略であるとされています。

よって私が今から申し上げる質問は、日本国家存続のための質問であり、日本政府から得られる情報を元に、主要メディアでは発信されない視点とリスクを住民生活を守る最後の砦として町行政に問う質問であります。

それでは、この前提をおきまして、最初の質問に移らせていただきます。

「町長は新型コロナmRNAワクチン接種による薬害事件が起きていると思うか。」

今まで私は本町に厚生委員会と一般質問を通じて新型コロナmRNAワクチンの薬害情報を提供してきましたが、6月議会の私の一般質問で町長は「全国から集めた三好東曜議員の話は鵜呑みにしない」と答弁され、「町長のもとにはワクチン接種をやめてくれとか町民から申し出は一切無い」と言われました。「鵜呑みにしない」という表現は「無視する」という意味で捉えたら良いのでしょうか。それとも、「本当であるかどうか確かめる」という意味で捉えたらよろしいのでしょうか。

おそらく「本当であるかどうか確かめる」という意味の「鵜呑みにしない」という表現であったのではないかと私は推察しますが、「本当であるかどうか確かめる」事をされた後の町長は新型コロナmRNAワクチン接種による薬害事件が起きていると思いますか。もし思わないのであればその理由は何でしょうか。お答えください。

- 議長（河野） 前田町長。
- 町長（前田） はい、議長。
- 議長（河野） 町長。
- 町長（前田） はい、議長。

○町長（前田） ご質問にお答えをいたします。

6月定例会で「三好議員の話は鵜呑みにしない」と申し上げたのは、ご質問の内容に公式に発表されたもの以外の情報が散見されたということで、そういう情報を取り上げて検討することはないという意味で申し上げたものであります。

町は国の政策の下でワクチン接種を推進する立場にあります。薬害事案の定義もあいまいであり、国からの公式な見解もない以上、薬害事案が起こっているかどうかのコメントは我々としてはできないと、そういうことであります。

以上、答弁といたします。

○議長（河野） 再質問はございませんか。

○7番（三好東） はい。では質問させていただきます。

○議長（河野） 三好君。

○7番（三好東） 2点あります。

まず、担当課長にお聞きしたいと思います。公式な発表以外のもの以外で、公式なものだけの情報、検討されているということで、逆に取ればそういうことになると思うんですが、公式なもののみでこれは、どこまで深掘りをされたのでしょうか。その深掘りをされて、された状態で、知りえた情報による学びや気づきはどのようなものだったかというのを教えてください。

もう1つ、もう1点はですね、その後、町民から、新型コロナmRNAワクチン接種をやめて欲しいとか、説明して欲しいといったような声は届きましたでしょうか。この2点お答えいただけたらと思います。

○議長（河野） 土肥健康福祉課長。

○健康福祉課長（土肥） はい。

○議長（河野） 土肥君。

○健康福祉課長（土肥） 三好東曜議員の再質問にお答えします。

公式のみの、一応それを信じるということで、それ以外のものを深掘りしたかと。言いましたら、こちらでは公式のもののみを見ておましてそれ以外のもの、それを深掘りしてみたということはしておりません。

また、町民からメッセージRNAワクチンですかね。これについて問い合わせ、これは1件、1名からあっております。以上です

○議長（河野） 再々質問はございませんか。

○7番（三好東） はい、議長。再々質問あります。

○議長（河野） 三好君。

○7番（三好東） はい、公式のみを深掘りしたというより、聞いた質問内容では、公式の情報読んで、どのようなことを学んだか、あと学びや気づきってところをお伝えしていただきたいなというふうに、問うたんですね。していないというのであれば、なぜそれをしないか。町長の指示がなく、深掘りをして調べることは職務規定に反するのでしょうか。また、職務規定に反していないのであれば、どうして深掘りをしないの

でしょうか。

公式な情報だけにしても、このワクチン接種により、予防接種健康被害救済制度に、認定された人っていうのは、過去45年間の統計の死亡した人で5倍以上になるんですよ。これ新型コロナワクチン単体で。ですので、これ異常事態が起こってるっていうのが誰の目でも、明らかであると思うんですね。NHKでもあさいちという番組で1時間の特番が組まれたところです。ワクチン薬害が起きていると。公式な情報、なぜそれをわざわざやらないのか。ここが、行政の責任、職務を失しているところではないかなというふうに私は思います。

そこの問い合わせ1件で1名というのは間違いではないでしょうかね。私の方にも報告ありまして聞いているのは2名で、要望書を提出に行きましたと。陳情書も提出に行きましたという報告があるので、その方たち以外にもう1名いらっしまったということでしょうか。正確な答弁をお願いします。

○健康福祉課長（土肥） はい、議長。

○議長（河野） 土肥健康福祉課長。

○健康福祉課長（土肥） 三好東曜議員の再々質問にお答えします。

深堀、公式の情報をこちらはとらえているというところで、それで学び気づきと、どうなのかというところですが、我々は国の予防接種法によりましてどういうふうに予防接種を実施していくかというところの中の情報を集めておりまして、議員おっしゃるいろんな情報、全国有志医師の会とか、そういった部分で、いろんな情報が流れてますが、これをこちらとしては、それを信用するのではなくて公式の、情報を信用して動いていると、国の情報をもとに動いているというところで、学び気づきというところまでの話ではないというふうに思います。

それから先ほど、町民から問い合わせという件でありました。この件については1名です。ただ要望書が上がったのは1名で合計2名でございます。

以上でございます。

○議長（河野） 三好君の1問目の質問が終わり、2問目の質問を許します。

○7番（三好東） はい。議長。

○議長（河野） 三好君。

○7番（三好東） 「綾川町の年度別死亡者数の推移と新型コロナmRNAワクチン接種の関係性は」。

新型コロナmRNAワクチン接種が始まった2021年以後3年間の日本人口の超過死亡数は約60万人に上ると言われており、ワクチン接種が超過死亡の原因の1つである事を懸念する声が強く国内外からあがっています。

本町でも国全体と同様に死亡数に変化はあったのでしょうか。過去10年間の年度毎の死亡数、月別死亡数を教えて下さい。また、国のデータでは死亡数が増えたのはワクチンの毎ブースター接種後数週間です。ワクチン接種開始日と死亡数の曲線は本町でも比例しているのでしょうか。

本町の年度別死亡者数の推移と新型コロナmRNAワクチン接種の関係性はどうか  
っていますでしょうか。

○議長（河野） 前田町長。

○町長（前田） はい、議長。

○議長（河野） 町長。

○町長（前田） はい。

○町長（前田） ご質問にお答えをいたします。

確認ができた綾川町の住民の年度別死者数であります。平成 27 年度が 312 名、平成 28 年度が 355 名、平成 29 年度が 320 名、平成 30 年度が 357 名、令和元年度が 341 名、令和 2 年度が 324 名、令和 3 年度が 373 名、令和 4 年度が 377 名、令和 5 年度が 367 名であります。ワクチン接種との関係性は不明であります。

ちなみに、先日でありましたが 9 月 11 日付けの四国新聞に厚労省の人口動態統計で、令和 5 年 5 月の感染法上の位置付けが 5 類に移行してからの 1 年間の新型コロナへの感染が原因での死者数が発表されておりました。香川県は 279 人でありました。なお、町の内訳は不明であります。

以上、答弁といたします。

○議長（河野） 再質問はございませんか。

○7 番（三好東） はい。

○議長（河野） 三好君。

○7 番（三好東） はい、ありがとうございます。この数字を見てからですね、若干、令和 3 年 4 年 5 年ということで、上がってるようには見えるんですけども、ここのところの分析を町の見解、詳しく教えていただけたらと思います。

○健康福祉課長（土肥） はい。

○議長（河野） 土肥健康福祉課長。

○健康福祉課長（土肥） はい、議長。

○議長（河野） はい、土肥君。

○健康福祉課長（土肥） 三好東曜議員の 2 問目の再質問にお答えいたします。町の方では、月別を見ても、流れとしては、そういうところで毎年の傾向にあるというふうにして、その辺のコロナの影響というのは、ちょっと考えにくいと思っております。その影響については、なかなかあったというふうにはわからないというところでございます。以上です。

○議長（河野） 再々質問はございませんか。

○7 番（三好東） ありません。

○議長（河野） 三好君の 2 問目の質問が終わり、3 問目の質問を許します。

○7 番（三好東） はい、議長。

○議長（河野） 三好君。

○7 番（三好東） 「新型コロナウイルス mRNA ワクチン接種はなぜ中止にならず、本町

は国に対して中止の要望をなぜあげないのか」。

新型コロナmRNAワクチンは予防接種被害者救済制度適用者の数を見ると過去のどのワクチンよりも健康被害が桁違いに多く、史上最大のワクチン薬害であることが明らかであるのにどうして、中止にならず、本町は国に対して中止の要望をあげないのでしょうか。

厚生労働省の新型コロナウイルス感染症予防接種健康被害審査(2024年8月30日時点)では、予防接種被害者救済制度の進達受理件数のうち認定数(累積)7,994件、死亡一時金または葬祭料に係る件数を含む認定数(累積)777件となっております。

これは過去45年間の予防接種被害者の統計を比べると、新型コロナウイルスmRNAワクチン単体で認定数は過去45年間のすべてのワクチンの総計の2.26倍、死亡一時金または葬祭料に係る件数を含む認定数は5.14倍となっています。接種総数で比較すると、死亡一時金または葬祭料に係る件数を含む認定数は約15倍です。

過去の予防接種に伴う重篤な有害事象の発生と中止事例を見ますと

- ・ジフテリア+百日咳+破傷風の三種混合DPTワクチンでは1975年に接種後2例の死亡例がありまして、調査検討のため接種中止になっています。

- ・1989年より始まった麻疹+おたふく+破傷風の三種混合MMRワクチンでは接種後に無菌性髄膜炎が多発し、当初10から20万人に1人の確率と言われていましたが、実際は1200人に1人の確率で集団訴訟が起こり1993年に中止になりました。

- ・2005年より始まったマウス脳由来日本脳炎ワクチンは接種後に数例の急性散在性脳脊髄炎(ADEM)症例の報告があり、予防接種健康被害認定部会・認定分科会において因果関係が否定できないと認定されたことにより積極的接種推奨が中止されました。

- ・2013年の子宮頸がんワクチンでは接種後に慢性疼痛を訴える症例の報告の集積により、接種開始まもなく積極的接種推奨の中止が決まりました。

このように過去の事例では問題が起これば接種の中止対応を国はしてきたのですが、なぜこの新型コロナmRNAワクチンは中止にならないのでしょうか。また、どうして町はこの様な薬害の実態を知りながら放置して中止の要望を国にあげないのでしょうか。ご答弁よろしく願いいたします。

○議長(河野) 前田町長。

○町長(前田) はい、議長。

○議長(河野) 町長。

○町長(前田) はい、議長。

○町長(前田) 質問にお答えをいたします。

厚生労働省では治験の結果、専門家の意見等によりまして、ワクチン接種によるベネフィット(メリット)がリスクを上回るとの見解でワクチン接種を定期接種として実施することとしております。国が実施すると決めたものでありまして、町のワクチン定期接種も実施する考えに変わりはありません。また、住民の方からも今年度の接種はいつ

から開始になるのか、自己負担はいくらになるのかなどの問い合わせをいただいております。ところでございまして、ワクチン接種への関心、これが伺えるところでもあります。

以上により、現時点で国への中止の要望はあげる考えはありません。

以上、答弁いたします。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○7番（三好東）はい、議長。

○議長（河野）三好君。

○7番（三好東）それではですね、何度も申し上げてるこのデータなんですけれども、予防接種健康被害調査制度、これの累積した死亡者、そして被害認定者の、このもう莫大な数字ですよ。これに対して、どういうふうに考えてるんですか。町の見解を、明確に示していただきたいと思います。これ、私から見たら、素人ですよ。素人ですけれども、もう過去に類をない被害が出ている。日本だけ、この8回目のブースターというのをやろうとして、大体世界各国は3回目で終わってます。政府は推奨するのは。なぜ日本だけ、こういうことをやろうとしているのか。なぜ町はそれに疑問を持たないのか。ここのところ、お答えいただけたらと思います。

○健康福祉課長（土肥）はい、議長。

○議長（河野）土肥健康福祉課長。

○健康福祉課長（土肥）はい、議長。

○議長（河野）はい、土肥君。

○健康福祉課長（土肥）三好東曜議員の3問目のご質問の再質問に対してお答えします。

今現在、おっしゃる通り、いろんな健康被害というところが出ていてというところは承知しております。今それでおいてもですね、国の方が、健康被害救済制度、これを実施しておりますが、この考え方というのは厳密な医学的な因果関係までは必要とせず、接種後の症状が予防接種によって起こることを否定できない場合も対象とするという、こういう方針で審査しております。先ほどおっしゃっておいりました、NHKの番組でも、ワクチン接種による因果関係がはっきりしないものも含まれるものを救済制度で救っているというふうな発言がございます。

2問目でお答えしましたように、まだ、香川県でも、コロナが5類になった以降も、300人近くの方がコロナの関連で亡くなっているという事実がございます。ですので、現在でも我々の周辺でも、コロナにかかって亡くなったという方がかなりいらっしゃるようです。ですので、そういう方、要は、高齢者、もしくは持病をお持ちの方、こういった方が医者と相談しながら、判断して接種する、そういう機会があるというのが望ましいと考えておりますので、中止はしないという方向で考えております。以上でございます。

○議長（河野）再々質問はございませんか。

○7番（三好東）はい。

○議長（河野）三好君。

○7番(三好東) NHKの方で、言われたことってというのは、関連しているんだとか、健康被害かどうかわからないってというのは、それ以外に、すごく体調が悪くて、このワクチン接種後に。たくさんそういう方も認定されてない方もいらっしゃるわけですよ。それが理由になるっていうことは、決してないと思いますのでそういうことを、曖昧なことを行政の答弁で言うのは、控えていただきたいなと思います。質問ではありませんけれども、次の質問に移らしていただいてよろしいですか。

○議長(河野) 三好君の3問目の質問が終わり、4問目の質問を許します。

○議長(河野) 三好君。

○7番(三好東) はい、4問目の質問です。

「自己増殖型新型コロナmRNAワクチン(レプリコンワクチン)を含むmRNAワクチンへの対応は」。

前の質問の予防接種被害者救済制度のデータを見ると史上最悪の薬害をもつ新型コロナmRNAワクチンの結果を厚生労働省は、「重大な懸念はない」として、今秋65歳以上の方などへの定期接種や任意接種として新型コロナmRNAワクチン接種を継続するようで、本議会の議案にもあがっている通りです。

しかしながら、上記の新型コロナワクチン接種による予防接種健康被害救済認定数、mRNAワクチンの作用機序に鑑みても「重大な懸念がない」とする理由を見出すことができません。

自治体職員の方からは「ワクチン接種を希望する方もいる」という声をお聞きすることもあります。ワクチン接種は医療行為であり、十分な説明のうえで、接種の同意を得る必要があります。

つまり、新型コロナウイルス感染症の事実に基づく情報と、新型コロナmRNAワクチンの作用機序、効能とリスクについて、当事者がわかるように説明した上で、接種の希望を確認する必要があったはずです。

このように情報提供が不十分なままで、「接種希望者がいる」ことを理由に接種を案内することは、自治体の使命である「地域住民の健康を守る」ことから乖離していると言わざるを得ません。

現在承認申請中の自己増殖型mRNAワクチン(通称レプリコンワクチン・製品名Meiji Seika ファルマ社 コスタイベ筋注)は、自己増殖機能を持ったワクチンであり、接種したmRNAが増殖し続けること、接種者の体内で変異すること、接種者から他者へ伝播すること、そしてワクチンのmRNAがウイルス化すること等が懸念されております。これは、既存のmRNAワクチン以上の被害を生み出すことになり得るものであり、さらに接種を望まない人への倫理的問題も孕んでいます。また、接種を請け負う医療機関をも危険にさらすこととなります。さらには、犬猫を含むペットや全ての哺乳類に伝播する危険性があります。また、ウイルスと同じように動物からの再伝播も懸念されています。

以上のことから、以下5点を質問いたします。

- 1、レプリコンワクチンを含むmRNAワクチンの接種事業の中止はできないのか。
- 2、レプリコンワクチンを含むmRNAワクチンへの補助金交付の中止はできないのか。
- 3、住民へのmRNAワクチン（レプリコンワクチンを含む）のリスクの周知徹底はできるのか。
- 4、接種事業を請け負う医療機関へのリスクの周知徹底はするのか。
- 5、接種券の一斉送付の中止はできないのか。

住民の命と健康にかかわる重要なことであり、これを知り得た以上、接種事業を執り行う本町には、責任があることをご承知おきくださいますようお願い申し上げます。

よろしく申し上げます。

○議長（河野） 前田町長。

○町長（前田） はい、議長。

○議長（河野） 町長。

○町長（前田） はい、議長。

○町長（前田） 質問にお答えをいたします。

レプリコンワクチンは接種すると体内で新型コロナウイルスのmRNAを複製し、少量で効果が長続きするとのことであり、現行のmRNAワクチンと比較して10～100分の1の用量で同程度以上の抗体価と持続性があることがわかっております。用量が少ない分、副反応の低減が期待されるそうであり、

副反応は現行のmRNAワクチンと同等程度とされており、議員が言われるような無限増殖、体内での変異、他者への伝播、ウイルス化などは報告がされておりませんが、そのような情報はインターネットやSNS等で拡散されていることは承知しておりますが、どれも憶測が含まれ、科学的根拠に乏しい情報であると認識をしております。取り扱う企業説明会におきましても、そのような説明はなかったということであり、

1点目の、ワクチン接種事業の中止についてであります。ワクチン接種を望む声があり、国の事業として行われる以上、中止はできないものと考えております。何度も申し上げますが打つ・打たないは個人の判断に委ねられます。

2点目の補助金交付の中止についてですが、コロナワクチンはインフルエンザワクチンと比較してワクチン1本当たりの単価が高く、助成なしでは接種者負担が大きくなるため、国・町の助成を実施してまいります。接種希望者の負担軽減のために中止はいたしません。

3点目の住民への接種リスクの周知であります。これまで同様、公式発表の内容をワクチンのベネフィット（メリット）だけでなく、リスクについても周知をしてまいります。

4点目の医療機関へのリスクの周知であります。どの医療機関もワクチンのベネフィット（メリット）がリスクを上回ることを理解したうえで接種を行っていただいております。町からは副反応が起こった場合の対応を周知をしております。

5点目の接種券の一斉配布であります。これまでと同様、接種希望者が接種機会を逃すことのないよう、また行政サービスの一環として継続してまいりたいと考えております。

以上、答弁いたします。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○7番（三好東）はい、議長。

○議長（河野）三好君。

○7番（三好東）資料7をお目通しいただきたいんですけども、これは大阪府泉大津市の新型コロナワクチンの新ワクチンに対する秋接種への行政広報ですが、自治体が接種の推奨も行っておりませんし、補助金も交付しておりません。これはできる例ですね。

この理由は、自治体と議員が責任を取らないといけないからなんですね。もちろん議員も予算を承認すると、世界規模の薬害が想定されていますので、人類初の日本人を対象とした人体実験ですから、もちろん承認した責任を問われます。製造を請け負う製薬会社に賠償義務がないのと、厚生労働省も責任を予防接種救済制度以上は保障するつもりはない事が明らかになっています。我々に責任が転嫁されます。その事を行政側は認識されていますか。もし、懸念されている伝播が起こり、世界規模の問題に発展した場合は日本が世界の非難の対象になります。事実、その問題に震撼しているイギリスを中心とした専門家集団20名が自費で、国際会議を行うことになっておりまして9月25日と26日、星陵会館、東京ですけれども、第6回国際危機サミットICSという中で、ロバート・マローン博士、ライアン・コール博士、クリスティーネ・アンダーソン議員が、自費でこられてですね、警鐘を鳴らしに来るんですね。この点、どう思われますでしょうか。

○議長（河野）土肥健康福祉課長。

○健康福祉課長（土肥）はい、議長。

○議長（河野）土肥君。

○健康福祉課長（土肥）三好東曜議員の4番目のご質問にお答えさせていただきます。

レプリコンワクチンのそういう増殖をして被害をもたらすという、公式な情報はこちら持ち合わせておりませんので、コメントを控えさせていただきます。

○議長（河野）再々質問はございませんか。

○7番（三好東）はい、議長。

○議長（河野）はい、三好君。

○7番（三好東）はい。根拠が乏しいというふうに言われましたけれども、根拠はもちろんある中で言っております。

Meiji Seika ファルマの中とも協議をした村上教授という方がいらっしゃいましてですね、東京理科大学の名誉教授の方なんですけれども、彼が言う中ではMeiji Seika ファルマの人たち自身が厚生労働省の方も、もちろん臨席

しての話ですけれども、エクソソームという、どうやって伝播するかというシステム自体、理解されていないということが先日発覚したわけであります。

ですので私からのお願いとしましてはですね、今現在そういうことを把握されていないのであれば、そういう懸念がされているっていうことは十分承知していただいでですね、もしそうならば、迅速に取り止めていただきたいと。本当に日本自身が、鎖国になったりだとか、人類滅亡みたいな、そのきっかけになるような、バイオテロ、バイオウエポンっていうふうに表示もされてますけれども、そういった人体実験を我々日本人のみですよ世界中で。我々日本人のみを対象としてやられようとしている、この事実気付いていただきまして、町の方でも、そういう事実が判明した場合は、即刻取り止めていただきたいと。そういうふうをお願い申し上げます。

○議長（河野） はい、土肥健康福祉課長。

○議長（河野） 土肥君。

○健康福祉課長（土肥） 三好東曜議員の再々質問にお答えします。今現在ではというところで申し上げております。そのような事態になりましたら、こちらも国と県、情報を共有しながら対応してまいりたいと思っております。以上です。

○7番（三好東） はい、よろしくお願いいたします。

○議長（河野） 以上で、三好君の一般質問を終わります。

○7番（三好東） ありがとうございます。